

持続可能な社会に向けた景観保全活動の取組みについて ー地域と道路管理者の協働による課題解決ー

札幌開発建設部 都市圏道路計画課 ○日高 俊文
札幌開発建設部 都市圏道路計画課 長谷川 かほる
一般社団法人北海道開発技術センター 中前 千佳

札幌市南区の板割沢道路拡幅植樹区間では植樹から十数年が経過し、樹木による景観阻害等の課題があった。これらを解決するために、地域住民と道路管理者の協働による景観保全活動を開始し、今年で6年目を迎える。継続した取組により八剣山の紅葉が見えるようになる等、美しい沿道景観の創出に繋がる効果を生んでいる。また、地域の学校にSDGsを学ぶ場の提供を行うなど活動の幅を広げており、今回、協働の取組事例を紹介する。

キーワード：地域協働、景観保全、SDGs、維持・管理

1. はじめに

一般国道230号は、札幌市を起点とし、せたな町を終点とする道央圏を道南圏を最短で結ぶ延長153kmの主要幹線道路で、その区間内に定山溪温泉や洞爺湖などの主要な観光地等もあり、地域の観光・暮らし・産業を支える重要な役割を担う路線である(図-1)。

平成25年度より地域住民と道路管理者で構成された国道230号協働型道路マネジメント検討会において、地域課題の抽出とそれに向けた課題解決に向けての議論が始まり、平成28年に小金湯さくらの森がオープンしたことを契機に、板割沢拡幅記念植樹区間の道路空間改善について検討を開始した。その結果、平成28年度から、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木の間伐、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動を開始することとなった。

本稿では、地域住民と道路管理者の協働による景観保全活動が始まった経緯、活動を進めるうえでの課題、それをどのように解決し、取組を進めてきたか、その成果について報告する。

2. 地域と道路管理者の協働の体制づくり

(1) 協働型道路マネジメント

協働型道路マネジメントでは、地域の発展を支え、路線全体の機能を高めるため、道路利用者、道路管理者と関係行政機関が一体となって方策の議論・検討・実施を行うスキームである。

協働型道路マネジメントの進め方(図-2)は、まず、路線における地域資源・課題を抽出し、地域・路線の目指すべき方向性、路線に求められる役割、区間ごとの資



図-1 国道230号の区間

源、課題、目標、検討・実現の方向性を整理し、基本プランを作成する。次に、それを基に、課題解消のための具体的な取組内容・目標を検討し、推進プラン(活動計画)を作成する。続いて、実際に整備・管理(試行)し、効果の検証を行い、推進プランの見直しをし、フィードバックをし、改善を行う流れである。

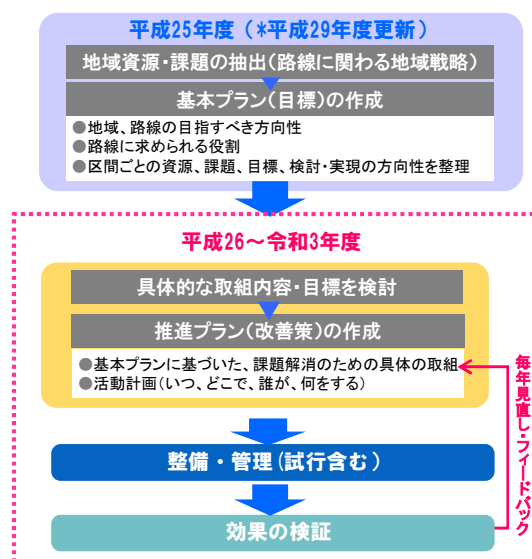


図-2 協働型道路マネジメントの進め方

(2) 国道230号協働型道路マネジメント検討会

札幌開発建設部では、平成25年度に、協働型道路マネジメントによる国道の整備・維持管理・利活用を推進するため、一般国道230号を対象として道路の機能向上・地域の課題解決を図ることを目的に、道路利用者、有識者、地域住民等の多様な主体と協働し、国道230号協働型道路マネジメント検討会を立ち上げた。

「協働型道路マネジメント検討会」（以下検討会）のメンバー（表-1）は、地域活動を実践する団体、観光関係、教育関係、行政など多様な主体より構成されている。

表-1 検討会メンバー

委員（分類）	所属団体
委員長	北見工業大学
地域活動団体	札幌シーニックバイウエイ ファーマーズ豊滝 （農業関係者団体） 簾舞地区まちづくり連合会
観光関係	定山溪観光協会
教育関係	東海大学
行政	札幌市 札幌市 南区 札幌開発建設部

運営体制としては、「国道230号道路マネジメント検討会」、「推進グループ」、「事務局」の3つに分かれており（表-2）、年に3回検討会を開催し、毎年、方策の議論・検討・実施を行っている。

表-2 運営体制

体制	役割
国道230号道路マネジメント検討会	地域の関係者や道路利用者と路線整備・運用の基本方針についての意見交換・共有化を図る
推進グループ	路線・地域の個別課題を解消するため関係者・活動団体等と協働し取組を実践
事務局（札幌開発建設部）	「検討会」及び「推進グループ」に関わり、意見収集、方向性の提示、効果検証、改善等の提案を行う

3. 活動開始の経緯

(1) 板割沢地区で行われた記念植樹

一般国道230号線板割沢地区は、定山溪への入り口として、2車線の屈曲した区間が続く交通の難所であった。その国道付替改修工事に伴い発生した国道跡地を、道路緑化計画区間と位置付け整備検討を進めることとなった。

緑化推進にあたっては、「北海道道路緑化基本計画」



写真-1 記念植樹の様子（平成15年6月）

に基づき、地域の特色や個性を尊重した緑化事業を目指し、周辺の植生環境に基づいた、新たな緑のネットワーク環境を創出するとともに、中間域として自然・都市地域の導入区間に相応しい緑化を推進することとなった。導入樹種は、地区周辺の自生種及び北海道在来種（ミズナラ、イタヤカエデ、ナナカマド、エゾマツ、ホオノキ、エゾエノキなど）による樹種構成とし、樹木の種類や植える範囲などは地区住民の意見を反映した。平成15年6月18日に「北のみち植樹祭」が開催され、地域周辺の学童や町内会の住民によって自然エリアに2,000本の記念植樹が行われた（写真-1）。

しかし、平成28年頃には、植樹から十数年が経過し大きく成長した樹木は、歩道に枝がはみ出したり、樹木が生い茂って山並みの風景が見えなくなる等、景観阻害の課題を抱えるようになった（写真-2）。平成28年に小金湯さくらの森がオープンしたことを契機に、国道230号協働型道路マネジメント検討会において、板割沢拡幅記念植樹区間の道路空間改善について検討を開始した。その結果、地域から「地域で環境保護のに取り組む場所があり、沿線樹木を協働で伐採したい」など維持管理への参画意向が伺えたことから、平成28年度から、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木の間伐、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動を開始することとなった。



写真-2 大きく成長した樹木が生い茂って背後の風景が見えない状態（平成28年）

4. 景観保全活動の取組

平成28年より、景観保全活動を開始し、6年間かけて、徐々に活動範囲を増やし、板割沢拡幅記念植樹区間（KP18.3～KP18.6）を整備してきた。この区間は、大きく

分けて①自然エリア（KP18.5～18.6）と②保全エリア（KP18.3～18.5）に分かれており（図-3）、自然エリアに記念植樹を実施した時の記念碑が3つ建っており、保全エリアには、エゾエノキの樹木が5本植えてある。活動を開始した当初は、記念植樹で植えた樹木以外の樹木も生えて鬱蒼としており、足元の雑草も伸び放題であった。

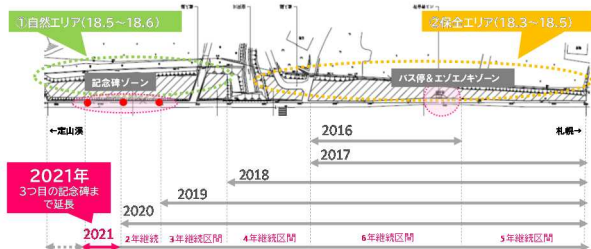


図-3 板割沢拡幅記念植樹区間（KP18.3～KP18.6）の活動範囲の変遷



写真-3 景観保全活動の様子の変遷（左上:平成28年、右上:平成29年、左下:平成30年、右下:令和元年）
活動当初、作業量が膨大で保全エリアの一部区間（100m程）を手入れするだけで精一杯だったため、保全エリアのみを活動範囲とすることとしていた。

ところが、6年間活動を継続していく内に、樹木が間引かれ、足元の雑草が減り、それに伴い林内が明るくなることで、年々雑草が生えづらくなり、年ごとの維持管理の作業量が減り、負担が減ったことで、徐々に活動範囲を広げていくことが可能となった（写真-4）。その結果、保全エリアに加え、自然エリアも活動範囲として加えることとなった。



写真-4 継続的な維持管理により、除草作業前でも雑草が少なく、維持管理の負担が軽減された
（左：6年目の保全エリアの除草作業前の状況）
（右：6年目の保全エリアの除草作業後の状況）

5. 児童館の子ども達への環境教育を实践

活動を開始した当初より、活動当日に、児童館の子ども達に道路や環境について、学んでもらう機会をつくり、環境教育を実践してきた。

簾舞地区にそびえ立つ標高498mの八剣山（正式名称：観音岩山）の南側の森には、日本の国蝶であるオオムラサキが生息している。オオムラサキは、羽を広げると10cm以上になる大きなチョウで、美しいムラサキ色の羽をしており、準絶滅危惧に指定されている。このオオムラサキが生きていくためには、幼虫の食べ物であるエゾエノキの葉が必要とされている。このエゾエノキは、北海道では、限られた場所にしか育たない木で、札幌市では、藻岩山・円山・八剣山の森で生育している。板割沢記念植樹区間の西簾舞バス停のまわりにも、5本のエゾエノキが植えられており、エゾエノキが、太陽の光を十分に浴びて大きく成長できるよう、邪魔な枝を払い、伸びている草を除草することが重要である。

児童館の子ども達は、環境学習の中でそのことを学んでいる。平成30年及び令和3年には、地域がエゾエノキに愛着を持つために、児童自らがエゾエノキの樹名板を制作し、エゾエノキに樹名板を設置する作業を行っている。また、除草作業後のゴミ拾いにも参加し、実際の活動の現場にも参加している。（写真-5）



写真-5 児童が景観保全活動に参加している様子
（左：ゴミ拾いに参加している児童（令和元年））
（右：制作した樹名板を設置（令和3年））

6. 活動の広がり

(1) 春の除草活動の開始

活動を開始した当初は、年に一度のみ、官民協働で秋の除草作業を行っていたが、それだけでは春から夏にかけて草が伸び、美観が保たれないことから、地域の人の発案により令和元年度から少人数で6月に除草作業を行うこととなった。（写真-6）

その結果、6月から秋の除草作業を行うまでの期間における沿道的美観維持及び、秋の除草作業負担の軽減が見込まれたことから、それ以来、春の除草活動についても継続して実施している。



写真-6 春の除草活動の様子 (令和元年6月)

(2) 活動の広報・周知

この活動の参加者を募るため、毎年、周知チラシ (図-4) を作成し、町内会の回覧板で全戸配布したり、簾舞地区まちづくり連合会が主体となって運営するウェブサイト「みすまいHOT (ホット) チャンネル」で掲載するなど、仲間づくりに向けた地元での重点的な活動周知を行っている。



図-4 周知チラシ

また、この活動を国道230号の道路利用者や地域住民に周知し、沿道環境への関心を持ってもらうため、令和3年2月29日から6月までの期間において、豊滝除雪ステーションで「みんなで育む美しい北の道展」として、板割沢拡幅記念植樹区間の景観保全活動のこれまでの活動の歴史や様子を紹介するパネル展を開催した。(写真-7) このパネル展を開催したことで、これまで活動を知らなかった層への周知につながり、新しい活動の担い手を生み出す結果につながった。



写真-7 豊滝除雪ステーションでの「みんなで育む美しい北の道展」

(3) パネル展を契機に地域の学校との連携へ

令和3年2月より豊滝除雪ステーションで開催された当活動のパネル展「みんなで育む美しい北の道展」で活動を知ったみなみの杜高等支援学校より、SDGsの取組の一環として活動への参加希望の申し出があった。

同年5月に、地域と道路管理者で、みなみの杜高等支援学校を訪れ、学校見学を行った(写真-8)。生徒達は、しっかりと手つきで金属部品をリサイクルのための分解作業をしており、SDGsの取組にも非常に関心が高い様子だった。



写真-8 学校見学に訪れた際の生徒達の様子 (令和3年5月)

そこで、令和3年度の春の除草活動においては、みなみの杜高等支援学校のエコリサイクルコースの生徒・教員にも参加いただき、春の除草を行うとともに、地域で取組む景観保全活動とSDGsとの関わりについて共に学ぶ機会とすることとした。

当日のプログラムとして、みなみの杜高等支援学校の生徒に対して国道230号や板割沢記念拡幅植樹の取り組みや環境保全の取り組みについての説明を実施した。生徒達には、活動の説明資料やSDGsの資料(図-5)を配布し、この活動に関わるSDGsの目標について考えてもらうこととした。また、鎌を安全に使ってもらうため、鎌の使い方の安全講習を実施し、その後、少人数の班に分かれ、生徒の安全を確保しながら、全員で除草作業を実施した(写真-9)。

このように、地道な活動の継続とパネル展等で広く周知をしたことにより、地域の学校との連携につながるなど、近年、活動の幅が広がっている。



図-5 生徒に配布したSDGsの資料



写真-9 春の活動に南の杜高等支援学校の生徒達が参加する様子 (令和3年6月)

(4) 子ども向けパンフレットにもSDGsを

この高等支援学校との連携を契機に、当活動とSDGsとの関わりについて気づきを得たことによって、子ども向けパンフレットの内容に当活動とSDGsとの関わりについて盛り込むことなどを検討し、新たにパンフレットを作成した(図-6)。パンフレットは、児童達が道の学習と環境の学習、SDGsとの関わりについて興味を持ち、分かりやすく学べる内容とし(表-3)、秋の活動当日、このパンフレットを用いて児童達に道と環境、SDGsとの関わりについての学習を行った。(写真-10)

表-3 パンフレットの構成

- | |
|-----------------------|
| 1. 道の学習 |
| ・道の役割 |
| ・活動経緯(道路の拡幅から植樹・維持管理) |
| 2. 環境の学習 |
| ・エゾエノキとオオムラサキについて |
| 3. SDGsとの関わり |
| ・活動とSDGsの関わり |
| ・持続可能な社会の創り手の育成 |



図-6 パンフレットデザイン



写真-10 パンフレットで学習をする児童の様子

7. まとめ

- ・この活動を地域住民と道路管理者の地域協働により6年間継続した結果、徐々に維持・管理の作業量が減り、活動範囲を保全エリアのみから自然エリアにまで広げることができた。
- ・当初は、年に一度、秋の除草作業のみだったが、地域住民の発案により、春にも除草作業を行うようになり、沿道的美観維持及び秋の除草作業負担の軽減につながった。
- ・活動の継続により、背後に見える八剣山の紅葉が見えるようになり、美しい沿道景観の創出(写真-11)や、

快適に歩行できる緑地空間の創出したことで、地域から景観を楽しめる空間づくりを検討したいと提案があった。

- ・美しくなった沿道空間を国道230号の道路利用者や地域住民に周知し、沿道環境への関心を持ってもらうために、豊滝除雪ステーションでのパネル展を開催。
- ・パネル展を契機に、みなみの杜高等支援学校の生徒達の春の除草活動への参加につながった。
- ・SDGsに関心の高いみなみの杜高等支援学校の生徒達が参加してくれたことによって、児童館の子ども達に当活動とSDGsとの関わりについて興味を持ってもらうための子ども向けパンフレットの作成につながった。



写真-11 整備され美しい紅葉が楽しめる沿道空間
(令和3年10月)

8. おわりに

地域協働による6年間の活動を経て、美しい沿道空間を創出することができたことから、今後は、この地を訪れる人に美しい景観を楽しめる空間づくりの検討を行うなど、板割沢拡幅記念植樹エリアの将来像を検討していく予定である。

引き続き、地域と道路管理者との協働による景観保全活動の継続することで、持続可能な社会の構築の一助となるよう、取り組んでいきたい。

また、地域の魅力向上につながる道路整備及び維持管理について、国道230号協働型道路マネジメント検討会で委員を含めた地域住民の皆様と議論・検討・実践を行いたいと考えている。

最後に、道路管理者と共に景観保全活動に取り組んで頂いている地域の皆様等に謝意を表します。

参考文献

- 1) 上村達也、高橋清、池田和也：国道230号協働型道路マネジメント検討会の取り組み—地域情報PRイベントや大学共同プロジェクト—、第59回(2015年度)北海道開発技術研究発表会。